

総合生活学科の概要

1 総合生活学科の教育研究上の目的

総合生活学科は、生活の基盤となる衣、食、住、情報、ビジネス、コミュニケーション分野における諸現象や諸問題を教育研究の対象とし、生活に関わる種々の課題を自らの目線で能動的に捉え、本学科で学んだ講義・演習・実習等を通して、より高い次元で自発的に問題解決を図ろうとする意欲と実践力を身に付けた人材を養成することを目的とします。

2 総合生活学科の教育目標

総合生活学科では、生活の基盤となる衣、食、住、情報などの中核的な科目群と、生活全般にわたる選択科目を履修できるように配慮しています。多様な分野の科目を総合的に、また学際的に学ぶことにより、本学科で身に付けた学修成果を基に豊かな生き方の可能性を広げ、的確な判断力や実践力を兼ね備えた人材の育成を目標とします。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

総合生活学科は、全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性が、次の基準に達している者に短期大学士（総合生活学）の学位を授与します。

【知識・技能】

- ・生活全般に関わる学科基礎科目について、基礎的な知識や技能を有している。
- ・選択科目群の総合的で学際的な学びを通して、創造的に思考する技能を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- ・客観的な情報の収集力、分析力、論理的な思考力、的確な判断力及び文章作成能力を有している。
- ・現代社会の課題発見能力と課題解決能力及び実践力を有している。
- ・社会に貢献できる豊かな表現力やコミュニケーション力を有している。
- ・持続可能な社会のために、未来を切り開く創造力を有している。

【主体性・多様性・協働性】

- ・実現可能なキャリアプランに向かって資格取得に資する力を有している。
- ・主体的に学修を深める力を有している。
- ・多様なものの見方や考え方を尊重する姿勢を有している。
- ・人々と協働・協調して学修を進める力を有している。

3 総合生活学科の授業の概要

総合生活学科の学生が、卒業までに学ぶ科目は、教養科目、学科基礎科目、選択科目の3種類があります。

教養科目は全学科共通の科目群から、英語コミュニケーション(a)・(b)の2単位が必修であり、他の10単位以上は各自の履修希望に応じて修得します。

学科基礎科目には必修科目と選択科目があり、総合生活学科の学習に欠くことができない基礎知識、基礎実習を履修することが必要です。必修科目は5単位のみですが、学科基礎科目は選択できますから、各自が学習を進めようとする科目群の基礎となる内容を考慮してできるだけ多くの学科基礎科目を選択し履修してください。

取得できる資格は、「フードコーディネーター3級」「秘書士」「プレゼンテーション実務士」「ブライダルプランナー」「二級建築士・木造建築士（受験資格）」があります。それぞれについての詳しい履修科目は、pp. 46～49を参照してください。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

総合生活学科は、学生がディプロマ・ポリシーに定める基準に到達できるよう、次のように教育課程を編成しています。

【教育課程の編成】

- ・学科基礎科目の必修科目として「総合生活論」「基礎ゼミ」「総合生活演習」、選択科目として「被服学」「食品学」「住居学」「情報社会論」「生活経営」「健康管理概論」「消費生活論」「家族関係」「被服構成基礎実習」「調理基礎実習」「住居デザイン基礎実習」「情報基礎演習」の生活全般に関わる基礎知識・基礎技術の習得を中心とする専門科目を用意している。
- ・学科の選択科目は7科目群で編成し、「服飾デザイン」「フードデザイン」「住居デザイン」「情報・ビジネス」「コミュニケーション」「心理」「キャリアデザイン」を自らのキャリアプランに応じて科目を選択し総合的に学べるような体系的なカリキュラムを編成している。
- ・各科目で身に付けた専門的知識・技能を基にして、応用力や実践力が身に付くよう、講義形式、演習形式、実験・実習形式など、科目の特性に応じた多様な方法で授業を行っている。
- ・以下の資格が取得できる科目編成をしている。

「フードコーディネーター3級」「秘書士」「プレゼンテーション実務士」「二級建築士・木造建築士（受験資格）」

【教育内容】

(1) 学年ごとの教育内容

- ・1年次開講の必修科目「総合生活論」「基礎ゼミ」は、2年間の学修を有意義なものにするために大学での学び方を基本から身に付ける必修科目とする。さらに衣・食・住、情報、ビジネス等の生活基盤となる科目を選択科目とし、学修基盤の充実を図る。
- ・2年次では、「総合生活演習」を必修とし、学科の専任教員が1年間ゼミ形式で指導することによって学生の専門性の向上に努める。

(2) 科目群ごとの教育内容

- ・「学科基礎科目」は「総合生活論」「基礎ゼミ」を必修科目、衣、食、住、情報などに関する科目を選択科目とし、学科の基礎を学修する。
- ・「学科基礎科目」の「総合生活演習」(ゼミ)は、2年次の通年開講の必修科目とし、学生の興味・関心に応じて専門分野の一つに焦点を当て、探求的に学修する。
- ・「服飾デザイン」の科目群は、服飾に関する基礎から応用までの知識や技能を身に付ける。
- ・「フードデザイン」の科目群は、食の分野に関する知識や技能を学び、栄養を有効に摂取するための調理・加工技術を身に付け、食生活をトータルコーディネートすることを目標としている。また、未来の食を自らの手で構築していく力を養う。「フードコーディネーター3級資格取得」を支援する。
- ・「住居デザイン」の科目群は、住居やインテリアに関する知識や技能を学び、二級建築士・木造建築士の資格取得を支援する。
- ・「情報・ビジネス」の科目群は、情報やコンピュータに関する基礎から応用までの知識や技能を学ぶ。「秘書実務」や「経営会計実務処理」では、ビジネスの実践を学ぶ。
- ・「コミュニケーション」の科目群は、日本語、英語、プレゼンテーション演習などの科目を中心に、社会やビジネスにおけるコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・「心理」の科目群は、「ビューティ心理学」「犯罪心理学」「恋愛心理学」「音楽心理学演習」「カウンセリング論」を通して、ビューティー、犯罪、恋愛、音楽、カウンセリングに関わる心理の分野について基礎的な知識を身に付ける。
- ・「キャリアデザイン」の科目群は、ブライダル関連科目を理論と実践から学び、ブライダルプランナー資格の取得をめざし、対話力や協働性を身に付ける。メイクアップやネイルアート関連科目は、講義や演習を通して、メイクアップやネイルアート関連の資格取得を支援する。

【教育方法】

- ・学科基礎科目群では、講義形式の授業ならびに演習、実習を通して生活全般にわたる基礎的知識や技術を広く教授する。
- ・専門科目群では、社会や生活にかかわる専門的な分野を7の科目群に分類し、学生自らが自己の目的に応じた学修プランを計画する。
- ・講義科目では、現代社会で生活するのに必要な知識を深め問題解決方法をアクティブに学ぶ。
- ・演習・実習科目は、キャリアや社会の発展につながる技術を中心に主体的に学ぶ。
- ・「総合生活演習」においては、1年を通して指導教員とともに自らの学びを主体的に深める場とする。
- ・講義形式、実習、演習科目すべてにおいて、ICTの利用やアクティブな学修を取り入れ主体的な学びを推進する。

【学修成果の評価方法】

- ・講義科目は、筆記試験、レポート試験、授業での学修活動、受講態度等を授業担当教員がシラバスに示した評価基準、評価方法に基づいて評価する。
- ・実験・実習・演習科目は、レポート、作品、筆記試験、プレゼンテーション、授業での学修活動、受講態度等を授業担当教員がシラバスに示した評価基準、評価方法に基づいて評価する。
- ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について、各科目の授業目的に応じた評価基準に基づいて評価する。

卒業に必要な単位数

総合生活学科	教養科目	専門科目		合 計
		学科基礎科目	選択科目	
卒 業	12 単位以上 (英語コミュニケーション (a)・(b) 必修)	12 単位以上 (必修 5 単位、選択必修 3 単位を含む)	38 単位以上	62 単位以上

二級建築士・木造建築士(受験資格)、フードコーディネーター3級資格、秘書士資格、プレゼンテーション実務士資格については、(pp. 46～49)のカリキュラム表にしたがって必要な単位を履修します。



授業が始まったら
学ぶ必要が
あること

資格について

二級建築士・木造建築士受験資格について

総合生活学科では、二級建築士・木造建築士受験資格を取得することができます。この受験資格を取得するためには、卒業要件を満たすとともに、所定の科目を履修し、単位を修得することが必要です。資格取得には、試験合格と卒業後2年以上の実務経験が必要です。

フードコーディネーター 3級資格について

フードコーディネーター資格は、細分化、専門化される食の分野の中で、科学、文化、デザイン・アート、経済・経営の4つの分野を総合的に学び、食をトータルにプロデュースする仕事への資格です。食の商品開発、レストランプロデュース、販売促進、メディアなど、フードビジネス全般について学びます。食イベントの企画から出店戦略、メニュープランニング、テーブルコーディネートの知識や技術などを学び、食をテーマに「ヒト・モノ・コト」「情報」をトータルにコーディネートする食の専門家への第一歩が3級資格です。所定の単位を修得することにより日本フードコーディネーター協会の認定資格「フードコーディネーター 3級」を取得できます。

秘書士資格について

営利・非営利を問わずあらゆる組織で働くときの基本を身に付ける資格です。職業人としての基本的姿勢、組織で働くときに求められる資質、企業活動についての知識や常識を学習します。必修科目では、これらの知識のほかに演習を通して実務への即戦力を身に付けます。各領域の選択科目においては、幅広い知識およびコミュニケーションスキルの習得により社会性を養います。別ページにある所定の科目履修と単位数を満たせば、卒業時に全国大学実務教育協会の「秘書士」資格が取得できます。

プレゼンテーション実務士資格について

自分の言いたいことを場に合った適切な表現で相手に伝えることができるよう、理論と技術、実践方法を学びます。とりわけビジネスにおいては、プレゼンテーションの良し悪しによって仕事の成果が左右されます。そのため、「説明」や「説得」という話し方における言語的、非言語的両方のメッセージの重要性、及びプレゼンテーション・ツールの使い方などを身に付けます。また論理的な話し方で、自分の言いたいことを、限られた時間の中で効果的に伝え、相手を説得できることを目指します。所定の単位の修得で、卒業時に全国大学実務教育協会から認定される資格です。

これら、総合生活学科で取得できる資格の取得に際しての履修科目等の詳しいことは、この冊子の別ページ（pp. 46～49）を参照してください。

ブライダルプランナー資格について

結婚（ウェディング）に関する一般知識やマナーを学ぶ科目「ブライダル・プランナーⅠ、Ⅱ」を受講後に実施される試験に合格すれば、「ブライダルプランナー 3級」を取得できます。さらに実力に応じて、2級、1級にも挑戦できます。就職や将来に役立つ資格です。

社会福祉主事任用資格について

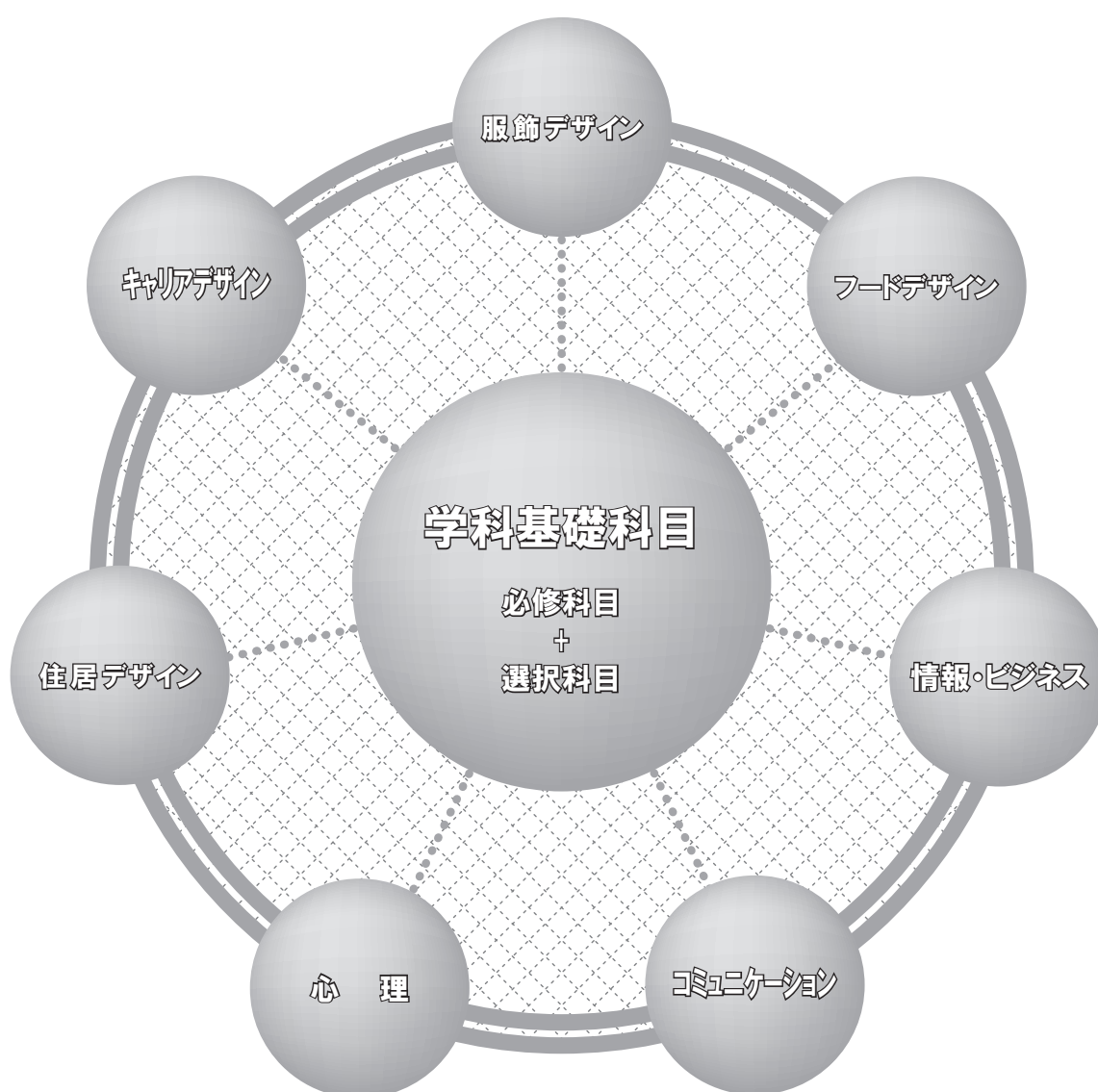
1. 社会福祉主事任用資格とは、都道府県や市町村の福祉事務所等で任用されるために必要となる資格です。この「社会福祉主事任用資格」を元に現場での経験を重ねれば、社会福祉領域のさらに広い分野で働くことも可能です。
2. 社会福祉主事任用資格は、厚生労働大臣が指定する社会福祉に関する科目から3科目以上の単位を修得することによって、取得することができます。
3. 総合生活学科においては、学科専門科目の「栄養学」「社会調査論」、教養科目の「教育学」等から3科目以上の単位を修得すると資格が取得できます。
4. 詳しくは、学科教員に相談してください。

総合生活学科カリキュラム構成図

総合生活学科の科目は、学科の教育の基盤となる学科基礎科目を中心に、生活全般にわたる分野の選択科目で構成されています。自分が希望する資格やキャリアプランに応じて学修できるようにカリキュラムは構成されています。



授業が始まって
すぐ必要なことから



専門科目

総合生活学科

〔表中の記号説明〕
 単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目
 ()－実験・実習・実技科目
 年次欄 ●●－通年の開講

区分	授 業 科 目	単 位 数		備 考	1 年次		2 年次	
		必修	選択		前期	後期	前期	後期
学 科 基 礎 科 目	必修科目							
	総合生活論	2		5 単位必修	○			
	基礎ゼミ	[1]				○		
	総合生活演習	[2]					●	●
	選択科目		2	2 単位以上選択必修	○			
			2		○			
			2		○			
			2		○			
			2		○			
			2	学科基礎科目・選択科目の中から 7 単位以上選択必修（選択必修 3 単位を含む）		○		
			2				○	
			2			○		
		(1)			○			
		(1)			○			
		(1)			○			
		[1]				○		
				1 単位以上選択必修				
選 択 科 目	服飾デザイン		2	選択科目の中から 38 単位以上	○			
			[1]			○		
			2			○		
			2			○		
		(1)					○	
		2						○
		2					○	
		2						○
	フードデザイン	(1)			○			
		(1)				○		
		2				○		
		2				○		
		2					○	
		[1]					○	
		(1)						○
		2						○
		2				○		
		2					○	
		(1)						○

区分	授 業 科 目	単 位 数		備 考	1 年次		2 年次	
		必修	選択		前期	後期	前期	後期
選 択 科 目	住居デザイン	住まいの法規	1	選択科目の中から 38 単位以上	○			
		住まいの施工	1		○			
		住まいの構法	2			○		
		インテリアコーディネート概論	2			○		
		インテリア設計製図	(1)			○		
		建築 CAD 演習	(1)			○		
		インテリアデザイン論	2				○	
		住居計画学	2					○
		住宅デザイン実習 I	(1)				○	
		住宅デザイン実習 II	(1)					○
		住まいの構造	2					○
		住まいの材料	2					○
		▲ 宅地建物と法	2		○			
	情報・ビジネス	情報科学	2			○		
		コンピュータ応用	2				○	
		秘書ビジネス論	2		○			
		秘書実務 I	(1)			○		
		秘書実務 II	(1)			○		
		社会調査論	2				○	
		マーケティング論	2			○		
		経営会計実務処理	2					○
		医療事務概論	2			○		
	コミュニケーション	プレゼンテーション概論	2		○			
		プレゼンテーション演習 I	(1)		○			
		プレゼンテーション演習 II	(1)			○		
		プロジェクト演習	(1)				○	
		ビジネスコミュニケーション	(1)				○	
		日本語表現	2		○			
		ビジネス英語コミュニケーション I	2				○	
		ビジネス英語コミュニケーション II	2					○
		実践資格英語 I	(1)		○			
		実践資格英語 II	(1)			○		
	心理	ビューティ心理学	2			○		
		犯罪心理学	2			○		
		恋愛心理学	2					○
		音楽心理学演習	(1)				○	
		カウンセリング論	2					○
	キャリアデザイン	ブライダル・プランナー I	2		○			
		ブライダル・プランナー II	2			○		
		ブライダルコーディネート論	2				○	
		▲ ブライダルコーディネート演習	(1)					○
		メイクアップ論	2		○			
		メイクアップ演習	(1)			○		
		ネイルアート演習	(1)			○		
		計	5	121	卒業要件単位数は 50 単位以上			

▲廃止予定科目



授業が始まって
すぐ必要なことから

二級建築士・木造建築士受験資格に関する科目（再掲）

〔表中の記号説明〕

単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目
()－実験・実習・実技科目

指定科目	本学授業科目							
分類	授業科目	要件単位数		1 年次		2 年次		備考
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
イ. 建築設計製図	住居デザイン基礎実習	(1)		○				
	インテリア設計製図	(1)			○			
	建築 CAD 演習	[1]			○			
	住宅デザイン実習Ⅰ	(1)				○		
	住宅デザイン実習Ⅱ	(1)					○	
ロ. 建築計画	住居学	2		○				
	インテリアコーディネート概論	2			○			
	インテリアデザイン論	2				○		
	住居計画学	2					○	
ハ. 建築構造	住まいの構造	2					○	
	住まいの構法	2			○			
	住まいの材料	2					○	
ニ. 建築生産	住まいの施工	1		○				
ホ. 建築法規	住まいの法規	1		○				
計		21		受験資格取得必要単位数 21 単位				

（注） 二級建築士・木造建築士資格を取得するためには、試験合格と卒業後2年以上の実務経験を要します。

フードコーディネーター3級資格取得に関する科目（再掲）

〔表中の記号説明〕
 単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目
 ()－実験・実習・実技科目

本学授業科目							規定科目
授業科目	要件単位数		1 年次		2 年次		
	必修	選択	前期	後期	前期	後期	
食品学	2		○				文化
							科学
調理基礎実習	(1)		○				文化
製パン・製菓実習	(1)		○				文化
栄養学	2			○			科学
調理学	2			○			文化
							経済／経営
食品加工学	2				○		文化
食品加工学実習	(1)					○	科学
食品衛生学	2					○	科学
食生活論	2			○			文化
フードコーディネーターの基礎	2				○		科学
							経済／経営
フードコーディネーター実習	(1)					○	デザイン／アート
インテリアコーディネート概論	2			○			デザイン／アート
マーケティング論	2			○			経済／経営
計	22		資格取得必要単位数 22 単位				



授業が始まって
 すぐ必要なことから

秘書士資格取得に関する科目（再掲）

〔表中の記号説明〕
 単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目
 ()－実験・実習・実技科目
 年次欄 ●●－通年の開講

規定科目区分	本学授業科目						
	授業科目	要件単位数		1 年次		2 年次	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期
領域 1 (幅広い秘書実務に対応できる学びの基礎能力や社会と自分を 知る力を備えている。)	キャリアへのアプローチⅠ	2		○			
	キャリアへのアプローチⅡ		[1]		○		
	プレゼンテーション概論		2	○			
	マーケティング論		2		○		
	社会調査論		2			○	
	カウンセリング論		2				○
領域 2 (秘書実務全体に必要な対人業務・情報業務・一般常識など に関する知識・スキル・態度、それを活用する実務実践力 の基本とその学修力を身につけている。)	秘書実務Ⅰ	[1]			○		
	秘書実務Ⅱ	[1]			○		
	情報基礎演習		[1]		○		
	ビジネスコミュニケーション		[1]			○	
	情報 A		[2]	○			
	経営会計実務処理		2				○
領域 3 (学びの基礎能力や秘書実務 力などを活かして取り組む課 題実践学修を通して、多様な 職業能力の基盤となる総合的 実務実践力(課題発見・解決 力)と学びの継続力の重要性 を理解している。)	秘書ビジネス論	2		○			
	ボランティアの実践		(1)	●	●	●	●
	プロジェクト演習		[1]			○	
計		6	17	資格取得必要単位数 計 16 単位以上			

プレゼンテーション実務士資格取得に関する科目（再掲）

〔表中の記号説明〕

単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目
()－実験・実習・実技科目

規定科目区分	本学授業科目						
	授業科目	要件単位数		1 年次		2 年次	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期
領域1 (プレゼンテーションに必要な基礎能力や社会と自分を知る力を備え、実践学修ができる基礎能力を修得している。)	キャリアへのアプローチⅠ	2		○			
	社会調査論		2			○	
	ビジネス英語コミュニケーションⅠ		2			○	
	ビジネス英語コミュニケーションⅡ		2				○
	情報基礎演習		[1]		○		
	マーケティング論		2		○		
	経営会計実務処理		2				○
	秘書ビジネス論		2	○			
領域2 (幅広いプレゼンテーション実務に対応する専門的知識・スキルを修得し、それを活用する力を備えている。)	プレゼンテーション概論	2		○			
	プレゼンテーション演習Ⅰ	[1]		○			
	プレゼンテーション演習Ⅱ	[1]			○		
	ビジネスコミュニケーション		[1]			○	
	コンピュータ応用		2			○	
領域3 (学びの基礎能力やプレゼンテーションの実務学修活動を通して、総合的な実践力と学びの継続力の重要性を理解している。)	プロジェクト演習	[1]				○	
	基礎ゼミ	[1]			○		
計		8	16	資格取得必要単位数 計 16 単位以上			



授業が始まって
すぐ必要なことから